

豊明・中島区

# 学習支援 週2回「両村塾」始まる

豊明市中央小に近い中島区集会所(同市新田町)で二十三日、地域の子どもたちに学習支援の場を提供する「中島両村塾」が始まった。長期休みを過ごす児童の居場所をつくらうと、区の青少年健全育成推進委員会が初めて開設。週一回のペースで開き、有償ボランティアの大学生らが宿題の手伝いなどをやる。

(角雄記)

塾の主な対象は、区内の小学 庄屋で、私塾を開いていた伊藤四年以上の児童で、共働きなど 両村にちなんだ。

理由で保護者が昼間に不在と 区によると、区内には子育てなりがちな家庭の児童ら。名称 世帯が多く居住し、区人口の二は、暮末期の尾張中島村(現在 千五百人のうち、小学生が百七の新田町)で活躍した儒学者・ 十二人、中学生が百一人。夏休

## 宿題 一緒に考えよ!

先生役の学生室に分からないところを教わりながら学習する児童たち＝豊明市新田町の中島区集会所で



みと冬休みには児童だけで過ごす家庭もあり、地域の中で子どもの居場所づくりを求める声が上がったことから、まずは学習支援に乗り出すことになった。初回のこの日は、地域で語学学校を経営するシャヒン・ファティさん(五三)の親子が、出身国ニュージールランドを紹介する英語教室を開催。続く自習時間には、愛知教育大四年の林建多さん(三三)、同大学院一年の杉山正幸さん(三三)の二人が先生役となり、子どもたちは分からないことを聞きながら、漢字や計算などの課題に取り組んだ。

塾は年間十四回、夏休みと冬休みの期間中の火曜と金曜の週二回のペースで開かれる。本年度は豊明市の「市民提案型まちづくり事業」に採択されており、補助金事業として試験的に運営し、継続できるか検討していく。

塾長の春田義雄さん(七五)は「仲間と一緒に楽しい雰囲気での学習に取り組めば、課題もはかどるし、理解も深まると思う。地域の大人たちと人間関係を築く場にもしてほしい」と期待。健全育成委の委員長近藤林平さん(七〇)は「手探りの中で始まったが、地域でできる取り組みを模索していきたい」と話している。